

塗装の下地処理 (2)

- ◎ 溶融亜鉛のめっき槽を出た直後に、ガルバニーリング法という加熱をすると、鉄と亜鉛が合金になります。この合金層は鉄に喰込んでいるので密着性がよく、また、表面を顕微鏡で見るとスポンジ状になっているので、塗料の密着性も優秀です。亜鉛の目付量も電気亜鉛めっきよりは多いので、塗装下地処理法としては、現在最高級に属します。
ネグロスのケーブルラックSR、QRなどは、この亜鉛合金めっき鋼板を使用しております。
- ◎ 前回、下地処理が製品の耐蝕性に重要な意味を持ちながら、外見上からはその良否がわからないことを述べました。
上記亜鉛合金めっき鋼板は、シルバーアロイ、パームジンクアロイ、ペントタイト、リバーアロイ、などの商品名で市販されておりますので、塗装ケーブルラックなどを選定される際は、**下地材の名前を聞いて確認する**のも一つの方法です。
- ◎ 亜鉛合金めっきは塗装下地として最高級ですが、この方法は亜鉛の目付量に限度があります。耐蝕性は殆ど亜鉛の目付量に比例すると考えて良いので、耐蝕性に関しては、目付量の多い溶融亜鉛めっき鋼板には及びません。
- ◎ ケーブルラックの用途から考えて、なにも装飾的塗装を必要としない所が結構多いのではないかと考えます。欧米では溶融亜鉛めっき鋼板が主流であるのに、どういうものか、日本では人気がありません。しかし、省資源的見地からも、次第に、見かけよりも実をとる時代が来ると思いますので、**ネグロスは亜鉛めっき鋼板製ケーブルラック（無塗装）の検討をしております。**（R. S）

製品ご決定の際は・・・**ネグロス**とご指名下さるようお願いいたします。